

絆強める奉仕の歩み

県営—花巻—森山球場巡り約100キ

力合わせ困難打ち勝つ

水沢高野球部

県立水沢高校硬式野球部（松本貴太主将、部員22人）は25、26日の2日間、盛岡市の県営球場から奥州市の同校まで約100キの道のりをごみを拾いながら歩く「100キボランティア」を実施した。夏の選手権大会などで使用してきた球場の清掃や歩道のごみを拾い集め、逆境に打ち勝つ精神力を鍛え上げながらチームの絆を強固にした。

地域社会への感謝の心を育み、自信や強いチームワークを身に付けようとする。和2年から冬場に実施している取り組み。



昨年とは新型コロナウイルスの影響で実施を見合わせたため、今年度は本年度末で閉鎖する県営球場、夏の大会が行われる花巻球場としんきん森山スタジアムへの感謝を表そうとコースに組み込みを行った。

1、2年生の男子部員と女子マネージャー計22人が参加。トレーナーや救護車も帯同し、安全に注意を払い実施した。

25日朝に県営球場の盛岡市から学校まで約100キを歩く水沢高校野球部の部員たち。金ケ崎町の森山総合公園

清掃を行い、国道4号を南下。国道では歩道に落ちていたごみを丁寧に拾い集め、地域の環境美化にも汗を流した。この日は花巻球場までたどる着き、清掃も行った。

26日は花巻球場を出発し、北上市内の国道道でごみを拾った。金ケ崎町同スタジアムでは、雪がちらつき時折風が吹き付ける中で清掃に臨み、部員たちは声をかけて励まし合いながらゴールの同校へ向かって力強く歩を進めた。

昨年の活動が中止となったため、現部員たちにとって、初めてのボランティア活動。

心身の疲れや痛みをこらえながらも、一歩一歩大切にして完歩を目指した。

「長い距離を歩くのはつらい面もあるが、地域によって空き缶だったりはこの吸い殻だったり種類が違うことに気がついた」と松本主将（17）。「春から夏の公式戦で厳しい局面を迎えたら、100キを歩き抜いたことを思い出し、逆境をはね返したい」と意気込んでいた。

佐々木明志監督は「周囲への感謝の気持ちを育てながら、チームワークを強めてほしい」と思っていた。想像以上に過酷で1人では達成困難かもしれないが、仲間を声をかけ合いながら乗り越えてもらいたい」と願っていた。